

演題：経口摂取が可能となり見えてきたもの
～口腔ケアステーションの活動を通して～

1) 2) 3)

演者：近田紀子 吉田昌夫 長井雅彦

1) 口腔ケアステーション 2) 吉田歯科医院 3) 松阪地区歯科医師会

抄録：松阪口腔ケアステーションは、平成14年に松阪地区歯科医師会が運営主体となり、訪問歯科診療のアフターフォローを行うことを目的に活動をスタートした。設立当初の依頼内容は、「義歯が合わない」「入れ歯を作りたい」等、義歯関連の治療主訴が多かったが、設立から約20年が経過した現在、活動は約40倍以上の活動実績となっている。依頼内容を見ても「歯科衛生士による口腔ケアで誤嚥性肺炎予防をしたい」「経口摂取を試みたい」「食事の様子をみてほしい」等、口腔の衛生管理と機能管理が求められるようになった。今回、摂食障害にて経口摂取が困難と思われていた患者に対して、「食べさせてやりたい」と願う家族の想いを尊重し、多職種であきらめずに関わった事例をご報告する。

何らかの理由で経管栄養を余儀なくされ、口から食べることをしないまま過ごしている患者は多い。口腔の衛生管理や機能管理が生命を守り、暮らしを守り、食を楽しむ、それが家族の支えになることを実感する日々である。誰もがみな食べられるようになるとは限らないが、適切な対応をとれないために食の楽しみを失ってしまうことは回避しなくてはならないと考えている。口腔ケアステーションは患者や家族の意向に耳を傾け、専門職としてのアセスメントを行い、地域でかかりつけ医や多職種と連携を取りながら経口摂取再開の取り組みを進めていく役割があると感じている。